

鶴城小学校

テーマ： 外国人児童教育のあり方を探る（15年次）

<テーマの説明>

令和8年度、鶴城小学校には80名の外国籍、または、外国にルーツをもつ児童が在籍している。その内、日本語教育が必要な児童は6か国37名である。年度途中での転入も多い。このように異なった生活習慣や文化をもつ児童が互いを理解し、相手の立場や考えを尊重しながら、共に学び合おうとする豊かな人間性を育むことをねらいとし、外国人児童教育のあり方を探る。（数字は1学期末現在）

活動内容

1. 児童への支援

（1）DLAの実施

日本語初期指導教室カラフルと協力しながら DLA（外国人児童のための対話型言語アセスメント）を実施し、外国人児童の言語力を個別に調査し、児童についての理解を深める。また、調査の結果を生かして、日本語指導の内容を、一人一人にとってより適切なものになるように検討・調整していく。

（2）読み聞かせ指導・学習指導

本校職員、図書館ボランティアによる読み聞かせの時間を保障し、日本語を身近なものに感じ、日本語学習を楽しく進めていくことができるようにしている。また、夏休みなどの長期休暇の期間を利用して、大学生ボランティアによる読み聞かせと学習指導の時間を設けている。

読み聞かせ指導では、児童が興味を示しやすい本を選択し、読書に興味をもつきっかけづくりになることをねらう。図書に親しむことで、日本語の語彙を広げたり、日本文化に親しんだりすることができる機会となっている。また、様々な言語の外国語図書の充実を図っている。

学習指導では、日本語で学習を進めていく際のつまずきを把握し、意欲的に取り組む



<令和7年度の夏休み読み聞かせ会の様子>

ことができるように支援する。長期休暇中の宿題を中心に、既習事項の確認を行い、基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける場となっている。

(3)「先輩の話を聞く会」の開催

西尾市に在学または在住している外国人の学生や社会人として活躍している先輩から、体験談や今後の目標等の話を聞く機会を設けている。身近な先輩の話を通して、励ましを受けたり、将来の夢に向かって進む大切さを学んだりする場となっている。



＜令和7年度の先輩の話を聞く会の様子＞

2. 保護者への支援

(1) 文書の翻訳

ポルトガル語、ベトナム語等への文書の翻訳を進め、保護者の理解を深めるとともに、そのデータの蓄積を図る。

(2) 多文化共生の啓発

学校からの文書を翻訳したり、かな付きなどのやさしい日本語にしたりして発信している。運動会では、日本語に加えて、ポルトガル語、ベトナム語、英語で演技演目の紹介を行っている。けやき音楽祭では、ポルトガル語でもプログラムのアナウンスをしている。どちらも、それぞれの言語を母国語とする児童の活躍の場となっている。また、行事等においては、ポルトガル語での案内表示（右の写真は、運動会での表示）を行っている。

